

大学発ベンチャー有楽町宣言

—大学発ベンチャー支援ネットワークの形成を目指して—

イノベーション・ジャパン2004「大学発ベンチャー支援フォーラム」

2004年9月29日(水) 10:00~17:00

東京国際フォーラム

2000年の平沼プラン以降、先端技術を事業基盤とする大学発ベンチャーの創出は着実に進み、今年3月末までに799社の大学発ベンチャーが創出された。一方で企業としての成長が遅い、利益相反など大学発ベンチャー特有の様々な問題点も指摘されており、本フォーラムにおいて有識者及び関係者約300名が集い、大学発ベンチャー支援のあり方について議論され、支援ネットワーク形成の重要性が認識された。

大学発ベンチャー有楽町宣言

1. 「ベンチャー育成の苦楽を知るハンズオン型ベンチャー支援が重要である」

大学発ベンチャーは公的にも通常のベンチャーよりも多くの支援を受けている。しかし大学発のハイテク技術を事業にすることは容易ではなく、民間でもハンズオン型のベンチャー支援を、よりもっと拡充させていかなければならない。支援はボランティアではない。この支援を引き出すために一体何が用意できるのかを明確にさせる必要がある。特に大学発ベンチャーは研究開発だけは一流だけれども、そのほかはまだ未熟であり、ともに苦しみ育て上げる必要がある。しかし一方大きなサプライズを期待できる楽しみもある。手間はかかるけれども、成長の段階に応じて適切なサポートを行うハンズオン型ベンチャーをつくる必要がある。いろいろな可能性を試すベンチャーに応じたハンズオン支援体制が必要だ。

2 「ベンチャーに必要な人材教育の仕組みをつくらなければならない」

ベンチャーの支援環境としては、米国などの人材の流動性の高さが注目される。ただ、米国はレイオフの裏返しでもあるということでもあり、人材の流動性が高いことは、それだけをもってよしということではない。むしろ日本では使える人材を徹底的に使っていく仕組みをつくり、米国のアントレプレナー・イン・レジデンスのような緩やかな枠を超えた仕組みをつくっていく必要がある。

日本でも終身雇用という保障が失せ、自分の力でもって人生を切り開くということを決意している人が少なからず現れている。特にベンチャー関係には、人生を次々と異なるベンチャーに賭けていくという選択をしている人がたくさんいる。本当にベンチャーが好きでやっているのも、こういうベンチャーに必要な人材供給の仕組み、これをより加速してやっていくようなことをしていくべきである。

局所局地的な人材をどういうふうに見つけ、どういうふうに見つけて産学官と金融関係を駆り出して鍛え上げていくかということが、これからの大学発ベンチャーの仕組みには重要なことである。

3 「緩やかな支援者ネットワークの形成が必要」

ベンチャーを育成する完全にプライベートな集まり、そういう緩やかな支援者ネットワークの形成が必要。点から始まり面的に展開させる。この中にはインフラのネットワークという形で展開しなければいけないこともある。現場の状況に即したいろいろなネットワークが生まれるし、現場に近いところで活動する支援ネットワークを、積極的にみんなの力で生み出していくべき。

ビバリーヒルズができたのは、だれもあそこに集まろうといったわけではなく、自分もビバリーヒルズの住人と見られるようになりたいと思う人間が自然と集まってきた、自立的なインセンティブに基づいて形成されたものだ。

ここで素晴らしい大学発ベンチャーをつくらう、つくった人がいる、私もつくりたい、こういうネットワークをこれからつくっていききたい。

この宣言が次回開くときに、また内容が進化していったものになることを期待して……

大学発ベンチャー支援フォーラムプログラム

…大学発ベンチャー支援ネットワークの形成を目指して

1. 開催日時：9月29日（水） 10：00～17：00
2. 開催場所：東京国際フォーラム・ホールB 7 2
3. 実施：社団法人 発明協会
4. 参加者：約300名
5. プログラム（内容）：

・ **開会の挨拶** 大学発ベンチャー支援ネットワーク代表世話人 北地 達明氏

第1部「大学発ベンチャー支援・関係者によるプレゼンテーションとパネル討論」

パート1：「創業期におけるエンジェル活動と事例紹介」

- ・ 「IAIジャパンの活動と創業支援の紹介」 IAIジャパン理事長 八幡 恵介氏
- ・ 「ピーテクノロジ企業紹介と創業期の課題」
(株)ピー・テクノロジー代表取締役社長 堀米 毅氏
- ・ 「CM-Japan企業紹介と創業期の課題」
シーエムジャパン(株)代表取締役社長 日下部 耐史氏
- ・ まとめ

IAIジャパン副理事長 上谷 達也氏

パート2：「大学発ベンチャー創業の支援活動事例」

- ・ 「山口大学における大学発ベンチャー創業支援の課題と今後」
山口大学産学官共同研究センター客員研究員/登録専門家 前田 禎彦氏
- ・ 「早稲田大学等における大学発ベンチャー創業支援の課題と今後」
産学官共同システム研究所代表取締役/登録専門家 白井 達郎氏

第2部「大学発ベンチャーの支援を考える」

パート1：「ベンチャー創設者と支援者の双方による大学発ベンチャー創業事例」

コーディネイター：東京工業大学教授 喜多見 淳一氏

- ・ ナノキャリア株式会社
- ・ 株式会社ベルセウスプロテオミクス
- ・ 株式会社シンセシス
- ・ ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社
- ・ アグリビータ

パート2：「大学発ベンチャー支援ネットワークのあり方と課題」

モデレーター：東京大学教授 渡部 俊也氏

特別講演「大学発ベンチャー支援施策について」

経済産業省大学連携推進課長 中西 宏典氏

パネルディスカッション

- ・ インクタンクジャパン株式会社社長 塚越 雅信氏
- ・ 株式会社東京大学エッジキャピタル代表取締役 山本 悟氏
- ・ 株式会社東京大学TLO社長 山本 貴史氏
- ・ レックスウェル法律特許事務所・弁護士 平井 昭光氏
- ・ 監査法人トーマツ代表社員 北地 達明氏
- ・ 株式会社アイキャット取締役 黒川 敦彦氏
- ・ 経済産業省大学連携推進課長 中西 宏典氏

まとめと宣言「ネットワークの重要性」について

大学発ベンチャー支援ネットワーク代表世話人 北地 達明氏